2018 7.16 vol.850

JA全農ウィークリー WEEKLY

3面

作業の負担軽減と時間短縮を提案
タマネギ作付け規模別収穫で実演会

2面

㈱Aコープ東北誕生

スタートを切った「㈱Aコープ東北」の合併記念式典で固い握手を交わす右から安田忠孝常務、小室秀行専務（Aコープ東北）、田中照夫社長（Aコープ東北）、山﨑周二専務、野口栄常務（2面）

タイ王国でのトップセールスで森田健作千葉県知事とさつまいもを売り込むJAかとりの武田好久代表理事組合長㊧（4面）

新潟市内で行われた大型ピッカーによるタマネギ「拾い上げ」実演（3面）

2 クリニックセンター新検査棟が竣工（畜産生産部）
3 クミアイプロパン絵のコンクール作品募集（燃料部）
4 JAズームイン（JAかとり）
5 JAズームイン（下関市）
6 青果情勢（園芸部）
7 畜産情勢（畜産総合対策部）
8 7月27～29日に全農杯全日本卓球選手権大会（小学生以下の部）全国大会（広報部）
JAタウンショップ紹介
おいしいおかやま（JA全農おかやま）

平成30年7月豪雨により被害を受けられた皆さまへ

このたびの豪雨により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申しあげます。
一日も早い復旧・復興に向けて総力をあげて支援してまいります。

News!

新会社「株式会社Aコープ東北」がスタート

東北地区Aコープ会社3社が合併、JAファーマーズ店舗の出店や国産農畜産物販売を強化

生活リテール部

㈱Aコープ北東北と㈱エーコープ宮城、㈱エーコープ庄内が合併し7月1日、東北5県域を営業エリアとする新会社「㈱Aコープ東北」としてスタートを切りました。

新会社は合併による規模拡大により、事業競争力・経営基盤の強化を図り、JAファーマーズ店舗の出店や移動購買車の増車、総合宅配の拠点拡大などを進め、組合員・消費者に安全・安心で新鮮な国産農畜産物の提供と、地域のくらしをサポートする企業を目指します。

盛岡市内で開いた合併式典であいさつした田中照夫社長は「店舗事業では、JAファーマーズ店舗の積極的な出店により、地産地消に取り組むとともに、産地間交流も積極的に行う。くらしの支援事業では、食材宅配事業をはじめとする買い物弱者対応などに地元JAと一緒に取り組み、地域の人口減少、高齢化などの課題解決に少しでも貢献したい。従業員が誇りを持って働ける環境づくりをしていきたい」と意気込みを語りました。

新会社の資本金は4億5900万円、年間の売上高は約250億円を計画しています。

合併式典であいさつする田中社長

News!

クリニックセンター新検査棟が竣工（しゅんこう）

耐震性、気密性の強化で建て替え

畜産生産部

千葉県佐倉市にある全農家畜衛生研究所は、クリニックセンターの施設に関して耐震性、気密性の強化を目的とした新検査棟の建て替え工事を終え6月14日、竣工式を執り行いました。

竣工式には34人の関係者が参列し、麻賀多神社宮司による神事が執り行われ、直会では施主を代表して畜産生産部の齊藤良樹部長、設計・監理を代表して㈱JA設計の長澤社長、施工を代表して㈱フジタの當房千葉支店長があいさつし、今後の施設運営の繁栄・安全祈願を行いました。

家畜衛生研究所は平成元年にJAクリニック制度を発足させ、現在全国約1600戸の加入農家が検査を利用しています。

JAクリニック制度は検査を活用した生産指導のシステムで、家畜の健康状態を把握するため血液検査などの各種衛生検査をクリニックセンターで年間約21万検体実施し、その結果に基づいて各地域の衛生担当者（獣医師）が防疫対策やワクチン接種・投薬などのプログラムを提案し、畜産農家の生産性向上と安全な畜産物の生産を支援する本会独自のシステムです。

齊藤部長によるあいさつ

JAクリニック制度を担う家畜衛生研究所クリニックセンター

News!

タマネギ作付け規模別収穫で実演会

作業の負担軽減と時間短縮を提案

新潟県本部

新潟県本部（施設農機部）は、平成23年度から「園芸機械の貸し出し」などによる園芸振興に取り組んでいます。特にタマネギは、複数のJAで作付面積が拡大、作付面積が1㌶以上の生産者が出始める中、課題となっている収穫作業について、規模別に収穫実演会を開きました。

新潟市内で6月25日に開いた「大規模生産者向け収穫実演会」では、井関農機㈱・ヤンマーアグリ㈱の協力で、「根切り」「掘り取り」「拾い上げ」の各作業を効率的に行う様子を実演し、時間短縮と労力軽減に向けた解決策を提案しました。

当日は、JAの役職員や生産者の他、県、土地改良区の関係者など約200人が参集し、園芸生産拡大への関心の高さがうかがえました。

小型機と比べ3倍以上の収穫作業効率となる県内未導入の「大型拾い上げ機（ピッカー）」を目の当たりにした参加者から「大幅に拾い上げ時間が短縮できる」「重いコンテナを手作業で運ぶ必要がなく、体の負担が全く違う」など生産拡大に向け前向きな感想が多く聞かれました。

今後も生産規模に応じた課題解決策の提案により、JAグループ自己改革の目標である生産者の「手取り最大化」「生産拡大」を後押ししていきます。

トラクター作業機による「掘り取り」

大型ピッカーによる「拾い上げ」

News!

クミアイプロパン絵のコンクール作品募集

今年も小学校低学年の部、中学年の部、高学年の部で開催

燃料部

みなさんの暮らしに身近なプロパンガスをテーマに絵を描いてみませんか？ JAグループLPガス事業ではクミアイプロパンにもっと親しんでもらうため、ふれあい活動を行っています。その一環として、今年も「クミアイプロパン絵のコンクール」を開催します。

コンクールは「クミアイプロパン」をテーマに子どもたちの視点で絵を描いてもらうことで、プロパンガスの大切さや正しい使い方などをもっとよく知ってもらい、また組合員、お客さまにJAグループガス事業の取り組みへの関心を高めてもらうことなどを目的に毎年取り組んでいます。

昨年の第33回には全国186校から5401点の応募があり、家族や食卓などの身近な風景を描いた心温まる作品などが集まりました。

今年も小学校低学年の部、中学年の部、高学年の部で開催いたします。入選作品は全農の広報誌やホームページなどに掲載するとともに、クミアイプロパンの広報資材として広く活用させていただきます。

たくさんのご応募をお待ちしております。

募集テーマ

1. 「自然にやさしいエネルギー」 地球のためにできることを考えてみよう。
2. 「プロパンガスを安全に使いましょう」 ガス器具を安全に使って事故をなくしましょう。
3. 「もしもプロパンガスがなかったら」 不便なこと、困ることってなんだろう。
4. 「ふれあい家族とクミアイプロパン」 プロパンガスを使った家族みんなの楽しい時間。
5. 「生き物とクミアイプロパン」 生き物たちの暮らしにもエネルギーは必要だね。
6. 「キャッチくんと仲間たち」 キャッチくんと友だちになったら、なにをしようか。
7. 「わたしの町(村)のガス屋さん」 お店で、町で、ガス屋さんはどんなことをしているのかな。
8. 「自由なテーマ」 プロパンガスの事をなんでも絵にしてね。

応募方法

対象 全国の小学生　大きさ 自由

提出先 「JAグループ LPガス担当部署」または「クミアイプロパン絵のコンクール」係

締切 平成30年二学期開始時

主催 JAグループ

提出作品の裏面に、かならず以下の事項を記入してください。

①テーマ（8の場合は自分で考えたテーマ）
②名前　③学年　④学校名　⑤JAグループ名

※作品中に標語や文字を入れることは自由ですが、絵の一部とみなし、言葉の内容は評価の対象にはなりません。※詳しくは下記事務局までお問い合せください。

クミアイプロパンキャラクター「キャッチくん」

クミアイプロパン 検索

http://www.zennoh.or.jp/gas/

JAズームイン

現地で焼き芋を実演 さつまいも輸出拡大

JAかとりは千葉県の北東部利根川流域に位置し、肥沃な土地から多彩な農畜産物を首都圏に供給しています。

平成30年2月、タイ王国でのトップセールスで森田知事とさつまいもを売り込んだJAかとりの武田好久代表理事組合長㊧

県知事のトップセールスきっかけに輸出スタート

園芸販売額の半分以上を占めるさつまいもの販路拡大に向け、県主催のバイヤー招聘（しょうへい）事業、海外フェアに積極的に参加し、さつまいもの認知度向上に取り組んでいます。

平成26年1月の森田健作県知事によるマレーシア（クアラルンプール）高級スーパーにおけるトップセールスをきっかけに、日本産さつまいもが高く評価され、年々輸出量が増加し、平成29年度は130トンを輸出しました。

この間、県や千葉県本部の協力のもと、現地店舗に焼き芋機を設置し、「焼き芋」という新しい食べ方を提案しました。生産者とともに試食販売を行うなどの活動を展開し、さつまいもをさらに理解してもらえるよう販売促進に取り組みました。

さつまいもの輸出に当たり、国内でのニーズと海外でのニーズが違ったことなどから、規格を分けることによる価格メリットや、周年出荷に向けJAによるさつまいもの土付きコンテナでの買い取りを行い、生産者の洗浄選果作業の軽減につなげるとともに、物流コスト削減にもなっています。

海外フェアで焼き芋の試食を勧めさつまいものおいしさをアピールするJA職員

さつまいもに続き米の輸出にも着手

「安全・安心な農産物」を海外の方々に食べてもらえるよう、国の「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」に戦略的輸出基地として参加し、平成30年産から輸出用米の取り組みを始め、生産者所得向上につながるよう取り組んでいきます。

JAかとり（千葉県）

概要　平成29年12月31日現在（事業年度末）

正組合員数	8889人
准組合員数	3324人
職員数	214人
販売品取扱高	99億9千万円
購買品取扱高	41億9千万円
貯金残高	952億円
長期共済保有高	3453億5千万円
主な農産物	米、さつまいも、にんじん、マッシュルーム、肉豚

JAズームイン

大型農機の普及に対応 整備施設リニューアル

くす玉を開き菊川農機センターのリニューアルオープンを祝う関係者

JA下関は大型高性能農機の整備に対応するため、「菊川農機センター」をリニューアルオープンしました。JAが取り組む「農業者の所得拡大」「農業生産の拡大」の実現に向けた農業振興策の一つで、「菊川農機センター改築」「農産物直売所2号店の新築」「農産物集出荷拠点施設整備構想」を自己改革の3本柱と位置付けています。

急務だった大型農機整備対応 検討から1年後にオープン

管内にはキャビン付きコンバインなど大型高性能農機の整備に対応する施設はなく、山口市にあるJA全農やまぐちの施設に運び込んでいました。近年、法人や担い手を中心に大型農機が普及し、対応できる施設整備が急務となっていました。

JAでは平成29年夏から大型農機整備施設の検討を始め、菊川農機センターを改築して対応することを決定。農繁期に間に合うように平成30年1月に着工、6月4日にオープンしました。5日に開いた竣工式では、関係者がくす玉を開いて工事の完成を祝いました。

リニューアルオープンした菊川農機センター

センターは、敷地面積約1700平方㍍、延べ床面積は約690平方㍍の鉄骨造1階建て。300平方㍍、高さ7㍍の農機具整備作業場を備えています。ホイスト式クレーンで農機をつり上げて移動できるなど、これまで難しかった作業も効率的に行えるようになりました。

落成記念展示会を開催 組合員に農機センター披露

落成を記念して、6月22、23日には菊川農機センターで展示会を開きました。最新の大型農機や農機具を敷地いっぱいに並べ、生まれ変わったセンターを披露。多くの来場者でにぎわいました。訪れた法人の代表者からは「今までは大型農機を整備する場所が遠かったので、近くで対応してもらえるのはありがたい」と歓迎の声が上がっています。

JAでは今後、農機担当者の専門知識を深め、提案力やアフターサービスの向上を図り、農業所得増大や生産拡大につなげていきたいと考えます。村上達己組合長は「農業振興を進める上で農機事業は重要な位置付けであり、組合員や利用者に喜ばれる拠点施設にしていきたい」と意気込みを語りました。

ホイスト式クレーンで農機をつり上げ、効率的な作業が可能に

JA下関（山口県）

概要	平成30年3月31日現在
正組合員数	9680人
准組合員数	2万1963人
職員数	327人
販売品取扱高	48億1千万円
購買品取扱高	30億1千万円
貯金残高	1636億5千万円
長期共済保有高	5739億9千万円
主な農産物	米、麦、大豆
	アスパラガス、キャベツ
	イチゴ、ナス、トマトなど

青果情勢

（園芸部）

野菜

関東や準高冷地が出荷の中心

概況

7月は、東北・北海道や高冷地からの出荷が本格化してきます。

キャベツは、群馬・長野・岩手などの高冷地中心の出荷となります。群馬・長野は前進傾向で順調な生育となり、昨年を上回る出荷見込みです。岩手は夜温の低下からやや生育遅れていますが、作柄良好となっています。

ハクサイは、長野などが中心の出荷となります。低温・干ばつの影響で小玉傾向で推移していますが、気温上昇に伴い数量は増加する見込みです。出荷量は、前年並みを見込んでいます。

ダイコンは、北海道・青森などが中心の出荷となります。低温などの影響で生育が遅れ気味の圃場（ほじょう）があります。生育遅れと高齢化による作付け減少から前年を下回る出荷を見込みます。

ニンジンは千葉の出荷が終盤で、青森・北海道などが中心となります。千葉は降雨の影響で収穫遅れがみられ、青森・北海道は平年並みの生育となっています。

レタスは、長野・岩手・群馬などの高冷地が中心の出荷となります。出荷量は気温の上昇に伴い、7月以降本格出荷を迎える見込みです。

トマトは、北海道・東北産地・関東産地が中心の出荷となります。現状、東北産地は着色が遅れ気味ですが、今後、夜温の上昇とともに「海の日」頃には平年のペースに回復する見込みです。出荷量は、前年並みを見込んでいます。

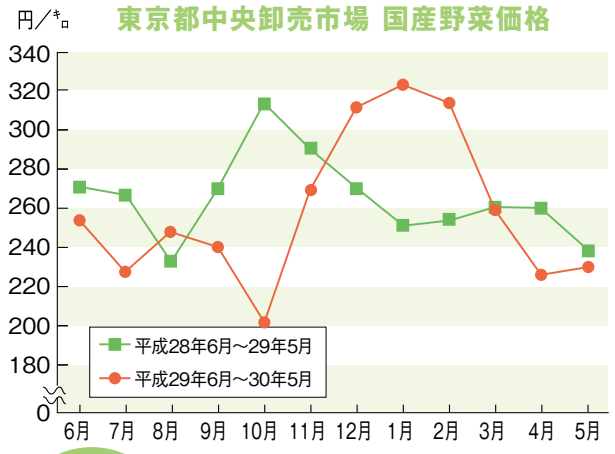
キュウリは、東北産地が中心の出荷となります。6月は冷え込みから少ない出回りでしたが、7月上旬以降、本格的な増量となる見込みです。

ナスは、関東産地が中心の出荷となります。出荷量は、多かった前年をやや下回る見込みです。

ピーマンは、茨城に加え青森、岩手、福島などの夏秋産地の出荷も本格化してきます。東北産地はやや遅れがみられますが、「海の日」頃には本格出荷を迎える見込みです。

店頭

気温、湿度とも高い時期となり、清涼感のある香味野菜やエダマメ、トウモロコシなど、季節感のある野菜が大きく展開されるようになり、夏野菜の本格的なシーズンを迎えます。



果実

夏の果実が本格化

概況

7月は、スイカ、メロンに加え、桃、ブドウ、梨などの夏果実の出荷が本格化するシーズンとなります。

スイカは、山形・長野などが中心の出荷となります。好天に恵まれ順調なとなっており、出荷量はおおむね前年並みを見込みます。

メロンは、千葉・北海道・山形などが中心の出荷となります。生育は順調で、味の仕上がりは良好となっています。出荷量は、前年をやや下回ると見込みます。

桃は、山梨・福島などが中心の出荷となります。各地とも好天に恵まれ、生育は前年より早くなっています。出荷量は少なかった前年を上回る見込みです。

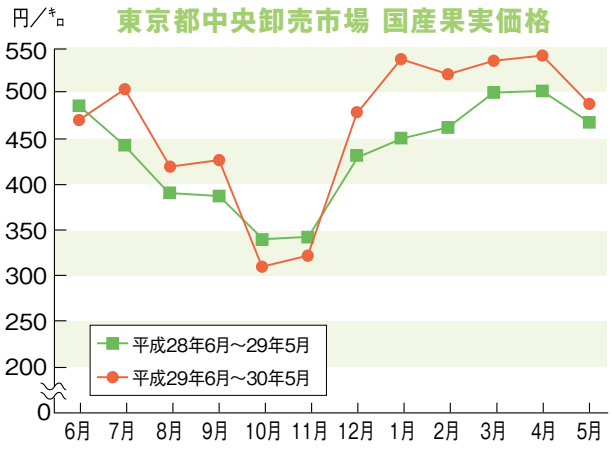
ブドウは、「デラウェア」が山形・山梨などが中心の出荷。中旬まではハウスもの、以降は露地物中心となります。「ピオーネ」、「巨峰」などの大粒品種の出荷も本格化してきます。出荷量は、前年をやや上回る見込みです。

梨は、福岡・佐賀などが中心の出荷となります。ハウス「幸水」は平年並みの生育となっていますが、露地「幸水」は全国的に生育が早くなっており、下旬には各産地出そろう見込みです。出荷量は前年を上回る見込みです。

ハウスミカンは、佐賀・愛知が中心の出荷となります。生育は順調で内容も安定しています。出荷量は、おおむね前年並みとなる見込みです。

店頭

国産果実の品目数量が増えてくる時期ということもあり、売り場も華やかになってきます。週替わりで、さまざまな品目の催事・セールスが行われます。



主産県だより

6月は、トマト・ミニトマト、キュウリ、レタス、アスパラガス、梨、リンゴ、桃、ピーマンの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

畜産情勢

（畜産総合対策部）

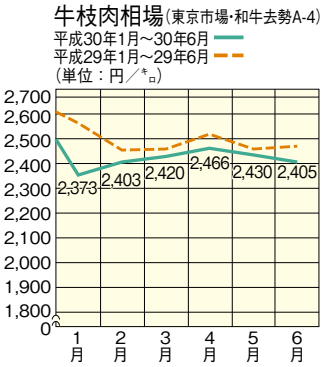
牛肉　中元ギフト、行楽需要に期待

6月の成牛と畜頭数は、速報値で約8万1千頭(前年比98.6%)と微減となりました。

6月の東京市場枝肉卸売価格は速報値で、和牛去勢A5が2780円(前年比99.3%)、和牛去勢A4が2405円(同 97.1%)、和牛去勢A3が2145円(同 98.2%)、交雑牛B3が1477円(同 100.8%)でした。

農畜産業振興機構の7月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約4万1千頭(前年比100.9%)、交雑牛が約2万1千頭(同 99.4%)、乳用種が約2万8千頭(同 100.8%)で、全体では約9万1千頭(同 100.4%)と予測しています。

6月の枝肉相場は大きなイベントもなかったことから、相場はもちあいで推移しました。一方で、7月から8月の時期は、中元ギフト需要と行楽需要が見込まれることから、今後の枝肉相場に期待したいところです。

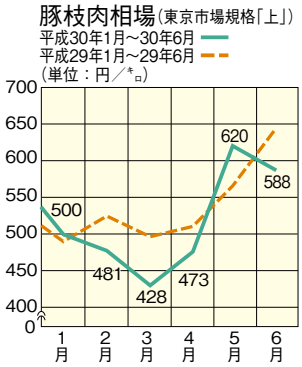


豚肉　相場は比較的落ち着いて推移

6月の全国と畜頭数は、速報値で約128万頭、前年比97.2%でした。

6月の東京食肉市場枝肉相場は速報値で、588円/kg(前年比91.2%、前月比94.8%)となりました。GW明け以降出荷頭数が少ない状況が続いたため、相場は高値で推移していましたが、量販店などが割安な輸入豚肉へ販売をシフトしたため、6月に入ってしばらくすると、相場は急落しました。その後も、そのまま相場は安値で推移し、例年に比べ低相場が継続する状況となりました。

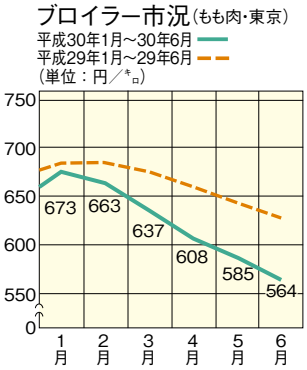
農畜産業振興機構の7月出荷予測頭数は約127万頭(前年比103.4%)となり、前年同月をやや上回ると予測していますが、例年と比べると、引き続き出荷頭数は少ない状況です。例年7月は年間で出荷頭数が最も少ない時期であるのに加え、月の後半からは夏休みの行楽需要なども見込まれますが、輸入豚肉の入荷が堅調であることから、相場は比較的落ち着いて推移するものと思われます。



鶏肉　もも下げ基調、むねもちあい

6月の平均相場は、もも肉564円/kg(前月比21円下げ)・むね肉272円/kg(同10円下げ)で、正肉合計で836円/kgと前月比31円下げ、前年比で129円の下げとなりました。もも肉は末端販売の緩みを背景に下げ基調で推移し、月初め575円から月末555円と20円下げとなりました。むね肉は安価なタイ産むね肉の出回りもあったものの、サラダチキンなどの需要は継続していることから、月初め277円から月末268円と小幅な下げとなりました。しかしながら日別の相場では、昨年 2月以来の260円台に突入しました。

今年は梅雨明けが早まりましたが、もも肉は例年暑さからの需要減退で下げ基調で推移するため、7月のもも肉は月平均で540円と予測します。また、むね肉はチキンカツ・焼き肉用・サラダチキンなどの需要も見込まれ、もちあい圏内の270円と予測します。

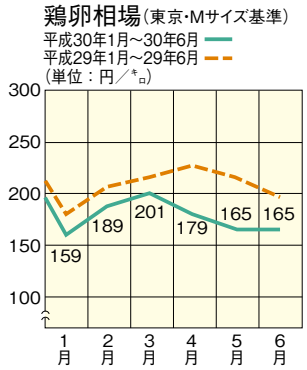


鶏卵　夏日続き末端需要の鈍化懸念

6月の東京相場の月間平均は、Mサイズ基準値165円(前年比△32円)となりました。4月23日に発動した成鶏更新・空舎延長事業の影響もあり、供給量が少なめに推移したことから大型連休明けに見られたような過多な産地在庫は、解消されました。また、5月下旬から需給に逼迫(ひっぱく)感が見られた西日本へのスポット出荷も、大玉を中心に引き合いが見られ、在庫解消の一因となりました。

需要面に関して、テーブルエッグは好調を維持しましたが、業務筋は天候不順などもあって荷動きは停滞しました。

今後は、成鶏更新・空舎延長事業は停止したものの、一定期間は影響が続くものと考えられ、供給量も引き続き少なめで推移すると予測します。需要面は大手外食チェーンのプロモーションが予定されているなど一部好材料もありますが、関東地方の梅雨明け以降、夏日が続いており、末端需要の鈍化が懸念されます。



TODAY'S AGRI NEWS
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週（月）～（金）6:30～6:35全国一斉放送！
今朝の日本農業新聞の記事とJAの役員インタビューをお届けします！

7月27～29日 神戸市のグリーンアリーナ神戸で

全農杯全日本卓球選手権大会（小学生以下の部）全国大会を開催！

全農が特別協賛する「全農杯平成30年度全日本卓球選手権大会（小学生以下のホープス・カブ・バンビの部）」の全国大会が、7月27～29日、兵庫県神戸市のグリーンアリーナ神戸で開かれます。【広報部】

全農は本大会に平成25年度から特別協賛。3月から6月にかけて全国各地で開催される予選大会から、地元の特産品などを副賞や参加賞として提供し、出場選手たちを「ニッポンの食」で応援してきました。全国大会でも兵庫県産の「但馬牛」を合計24㌔、「コウノトリ育むお米」を合計1440㌔提供します。今年はフェアプレー賞にも、徳島県産の農畜産物を提供します。

昨年度の開会式㊧と全農ブース

「石川佳純カレー」を先行発売

特別限定版の「石川佳純カレー」

また、会場内に設置する全農ブースでは8月以降に全国農協食品㈱で発売を予定している「石川佳純カレー」を先行販売。今回の商品は特別限定版として、石川選手出身県の山口県産豚肉を使用しています。全農はこうした取り組みを通じて大会全体を「食」で盛り上げます。

「食と農」の情報を広く消費者へ！
スマホアプリを公開中
JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実！
作動環境：スマートフォン iOS8以上　Android4.3以上

JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

おいしいおかやま（JA全農おかやま）

岡山白桃 6玉（約1.5㌔）……5000円

JAタウンはこちらから

岡山県の「おいしいおかやま」ショップより、みずみずしい果汁で岡山の夏を代表する果実「岡山白桃」のご紹介です。

「岡山白桃」とは、袋掛け栽培で生産された岡山県産の白い桃の総称です。1玉1玉に袋を掛けて育てることにより、品種に関係なく白色ジューシーに仕上げた岡山県産の桃のこと。

白に薄い紅色がかかり、上品な甘さと繊維質の少ない、とろけるような食感が特長です。

この機会にぜひ、ご賞味ください。お中元などの贈答にもオススメです。

なお、ご紹介した商品は、7/27（金）まで、FAXでもご注文を承ります（ご自宅宛代金引換のみ）。
※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03－5218－2517までご送信ください。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は http://www.ja-town.com
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

発行／全国農業協同組合連合会　2018年（平成30年）7月16日発行（毎週月曜日発行）
第3246号　編集・発行人／広報部　落合成年
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

休刊のお知らせ
7月23日号は休刊いたします。
次号は7月30日号です。

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。